

# 光円寺報

2011年 1月

〒679-2323 兵庫県神崎郡  
市川町甘地 384  
後藤明照、由美子(惟蓮)  
T&F 0790-26-0162  
メール kouenji\_dayo  
@nifty.com  
<http://kouenji-hou.com/>  
通信費年間1000円

あ  
あ  
嗚呼我等に

力と命とを与へたるは

南無阿彌陀佛である



高木頭明師

のらねこ

## 仏教徒宣言(その八十五)

新年明けましておめでとうございませう。本年も旧年中に変わらず、よろしくお願ひします。昨年末からは、雪が降つたり止んだりした日が続き寒いお正月でしたが、年始のあいさつ回りも終わり、やっと寺報の制作に取りかかっています。昨日は二十四節季の一つ「小寒」でした。これから節分までの一カ月ほどが「寒中」と呼ばれて、寒さがより厳しくなる時期です。

この寒中という言葉で思い出すのが、蓮如さんの真筆で最後の御文、遺言とも言われている「大坂建立」の御文です。その御文の中で、蓮如さんは、その年の夏の頃から体調が思わしくなく回復の兆しがないので、「ついには当年寒中には、かならず往生の本懐をとぐべき条、一定とおもいはんべり」と、今年の寒中に自らの死を覚悟されています。そして、私たちに「信心決定ありて、我人一同に、往生極樂の本意をとげたまうべきものなり。」と阿彌陀仏の本願を信じ念仏申す身になることを勧められています。

いよいよ今春より宗祖親鸞聖人の七百五十回御遠忌が勤まりますが、この勝縁に念仏申す身を賜らんことが、「我人一同に」今、願われているのです。それは「ただ念仏という教え」に生きるとは、この世においてどう表現することなのかを一人ひとりが確認することから始まるのではないのでしょうか。その時に、既に念仏の道を歩んでいた人に出会い直して行くことが大切です。その人とは南無阿彌陀仏のいわれを聞き、南無阿彌陀仏を称える人です。巻頭の言葉で紹介した高木頭明師は、戦争へとひた走る国家の中において、南無阿彌陀仏を称え続け、その本来の姿を伝えてくれた人です。八百年前、

全ての人の救いを明らかにした浄土門念仏宗の興隆が当時の仏教界から弾圧を受けました。しかし百年前、南無阿彌陀仏の平等な救済を説いた高木師を追放したのは、その浄土真宗大谷派宗門でした。

様ざまなしがらみや「自見」に囚われてしまっている時、私たちは、南無阿彌陀仏が何なのかを見失ってしまおうようです。それはまさに今、念仏をしようとしないう私の姿から明らかです。それは聞こえてはいるはず、見ているはずのものを無視してしまふ私たち凡夫の在りようなのでしょう。聞いてしまえば、見てしまえば、自分の都合が崩れるからです。

そんな私たちは自分の死を「往生の本懐（もと）から抱いている願い、本来の希望」と感じる事が出来るでしょうか。どこに向かつて生きているのでしょうか。往生がはつきりしているのでしょうか。浄土からの呼びかけ南無阿彌陀仏が届いているのでしょうか。

お釈迦さんは「阿彌陀経」の中で、「経の名を聞かん者」と呼びかけています。そこに聞いた者に開かれて来る世界が在るのです。それは本願念仏の歴史に参加することであり、そのことが人類の救いであり同時に私の救いなのでしょう。その「ただ念仏の教え」がお釈迦さんの「正意」だと親鸞さんもうなずき、私たちへと伝えてくれました。七百五十回の御遠忌にその仏の正意に念仏に出遇うということは、具体的には「聞名」念仏の声を「聞く」ということと、「称名」念仏を「称える」こととして私に届けられるのです。この二つのことが自分の身の上で起きて来る「不可思議の功徳を称讃したまふ一切諸仏に護念せらるる経（阿彌陀経）を信ずべし」と呼びかけられています。

## 南無阿彌陀仏

## 釈明照

高木顕明師顕彰碑文より（表紙の文も）

南無阿彌陀佛は真に御佛の救済の声である。

闇夜の光明である。

絶対的平等の保護である。

智者にも学者にも官吏にも富豪にも安慰を与へつゝ、

あるが、彌陀の目的は主として平民である。

愚夫愚婦に幸福と安慰とを与へたる偉大の呼び声である。



諸君よ願くは我等と共に此の南無阿彌陀佛を唱へ給ひ。

今且らく戦勝を弄び万歳を叫ぶ事を止めよ。

何となれば此の南無阿彌陀佛は平等に救済し給ふ声なればなり。